

昭和五十二年二月一日第三種郵便物認可

発行所〓社会通信社

発行人〓滝野 忠

東京都千代田区飯田橋4の4の8朝日ビル401号室 電話(03)261-7079
振替〓東京0158431 労金〓東京労金本店No50234

購読料〓月額400円 6カ月前納制

〈もくじ〉

■巻頭言■

「人材活用センター」を廃止せよ!

2

国鉄闘争への緊急提言(二)

第一回「人材活用センター」交流集会開催

3

大衆運動に火はついた

5

― 三百四議席はこわくない(三) ―

資料1

「大阪連絡会議」アピール

5

資料2

兵庫県集会「闘争宣言」

6

資料3

史上最大の「いじめ」作戦

7

資料4

ついに「死の行軍」阻止

8

資料5

国鉄分割に異議あり

9

資料6

「労研センター」の確認

11

資料7

社会党大会決議

11

資料8

闘う国鉄労働者と連帯しよう

12

政界・とこや談議―「創る会」の巻

15

資料9

「新しい社会党を創る会」の呼びかけ

16

パンフレット発行のお知らせ

国鉄闘争―勝利への展望

18

社会通信社刊 九月下旬発行

刊旬社社会通信

NO.312

一九八六年一〇月一日

一九八六年一〇月一日発行
(毎月一日・十一日・二十日三回発行)

■巻頭言■

「人材活用センター」を廃止せよ！

国労本部主催の「国労つぶし・人権侵害の実態報告九・六中央集会」が、九段会館で、一、四五〇人を結集し（一、〇〇〇人を予定）開催した。

一部として△レールよ、目を覚ませ△として、追悼曲・詩の朗読・自殺の報告・遺族のメッセージ・黙禱を行ない、二部は△労働協約違反・人権侵害の告発△として、人活センター設置の経過報告（秋山企画部長）、職場からの報告（札幌・門司・仙台地本）、家族の報告（東京地本佐藤幸子）、三部は△連帯のあいさつ△として、知識人を代表して星野安三郎教授ほかトランペット・国鉄うたごえ合唱団、四部は△乗客の安全が危ない△として、品川電車区・調査団・葛西（国鉄本社職員局次長）発言テープ・国会議員団・学者弁護士、そして組合報告として国労本部鳴田調査室長がおこなった。全体でとくに強調されたことは、人道にも反する「人活センターを廃止せよ！」ということであった。

さいごの部として△いま闘いのとき△では、動労から復帰した、鹿児島地本志志機関区の永里さんから「今日も二名、国労へ帰りました（拍手）、当局にすり寄ってほんとうの意味で雇用が守れるでしょうか。国労に帰って始めて労働組合らしい組合を実感した。まだ続いて帰ってきます。歯をくいしばって粘り抜きましょう」と、また鉄労から復帰した新潟地本長岡保線支区の晒名さんから、「私は当局でこまをすらないで、オカシイことには自分に忠実に意見を言ってきたら、夏季手当で五%カットをしてきた。当局は、私が国労の諸君と口をきいていることも理由にしているようだ。人間らしく、生甲斐のある人生を守り抜こう。分割民営反対の使命にもえている」と訴え、さらに退職者組合の外山委員長が「全国一七連合体」を代表し挨拶し、また、東京家族会の鈴木さんからは「分割民営になったら宿舎はどうなるでしょう。そうかと思うと、動労が入ってきたらタタミも新しくしたりしているが、動労の子供（中三）が親の広域配転の犠牲で新潟から転校してきたら、馴れない学校がイヤになり四谷署に保護されたりして、私たちは同じ国鉄の者としてPTAで救済に動いた」との報告。引き続き、「弾圧をおそれず闘おう国鉄労働者：」の合唱があり、続けて総評の松橋労働局長から「国のレベルの課題ゆえ国民戦線的に運動するが、そのためには国労の独走の樹立が必要」の挨拶。なお議員団として永井・戸田・新森・小林・青木・沢田・渡部・野坂氏らを代表して高沢議員が社会党を代表して「野間宏の『真空地帯』で、将校は下士官を、下士官は兵をなぐり、兵は自殺していった情景は正にいまの国鉄当局傘下の六五名自殺とそっくりである。社会党は民営的手法を唱えているが（声あり）、社会党も総評もいろいろな意見をまとめ、国労を守っていくという点では断固闘う」と挨拶。共産党議員団は内藤・佐藤・中島・小笠原・市川・矢島・工藤氏ら、そして村上副委員長が代表して、「不材不活用の、人権じゅうりんの、安全輸送を脅す人活センターはなくし、本来の職場をとり返そう。箱根八里の『軍事訓練』とは何事だ。岐阜では両足切断の職員を、分割民営に反対なら障害手当も奪おうとしている。本質と事実を国民に知らそう。議会の外ではわれわれは多数派だ、真正面から闘おう」と挨拶。最後に国労の山崎委員長が「いま組合員は人権侵害に耐えての生きざままで頑張っている。政府・当局の国鉄政策のひどさを事実をもって訴え、皆のエネルギーを本部に集中し分割民営反対・ローカル線廃止反対そして雇用と組織を守り抜こう」と締めくくった。

第一回「人活センター」交流集会開催

八月二〇日、神奈川地区センターにおいて羽沢駅分会が中心となって呼びかけていた第一回「人活センター」交流会が一二三分会約五〇名が参加し、支部主催でおこなわれました。

松本分会長の司会ではじまり、支部の挨拶の後、各分会「人活セ」の代表から実態報告がされました。

川崎要員センター 現在一九名、日によって一名が待命の時がある。夏用国労バッチを着けて出勤に行ったら勤務をハズされた。しかし、点検摘発手帳をつけてがんばっている。

新鶴見運転区 弁天橋電車区、東神奈川電車区、新鶴見機関区から役員、活動家を中心に、高齢者、病弱者が集められた。

現代の「ユダヤ収容所」だ。監（看）視つきで炎天下のもと、ムギワラ帽子を要求しても支給せず、草むしりの強制労働。部屋は雨漏りはする、冷房はない。七名に理由（説明できない）なしの賃金カット。一〇日間に及ぶ「企業人教育」とはちがった「業務命令」による学園（独房）入所の強制と、私たちに嫌気をおこさせて、退めさせようとしている。

しかし、これが当局のネライだとすればするほど、仲間と団結し、ニュースを出す、地域住民に非人間的な扱いをされていることを宣伝、バクロしています。さらに、二四日には「フジ」「サンケイ」以外のマスコミに連絡をし、「人活センターからの告発」という集会をもちます。私たちはどんなに苦しくとも国労の旗のもとにがんばります。

大船横浜信号区 月六回の夜勤になったが、一〇名が減、健康が破壊される。電気区の人たちが職場におりてくる。

横浜保線区 一四名が「人活セ」だったが、草ムシリから踏切りまですべてやらされ、退める仲間が出る。ある区では、「人活セ」に行かされたくない」と言う気持ちから、当局に強制され、時間外にオレンジカードを売ってしまう仲間が出た。

さらに当局は「当局に誠意を見せれば国鉄「新会社」に残れる」と言って、非現業助役試験を受けさせようとしている。オレンジカードでも試験でも「イヤイヤ」と「積極的」に分かれたり、反対に役員、活動家、「人活セ」の仲間には言わないいうことをやってきている。「人活セ」の仲間には「民間会社を受けないか」とか、ボタンがはずれている、名札がまがっているなどとうるさい。差別と分断の前には、学習やニュースなどの交流をやらなくては。

大船保線区 大船、戸塚各支区、保守G管理室から役員・活動家中に四八名が集められた。

仕事は今までとは変わらないが、昼間できるマクラギ交換を夜やらせ、朝まで一睡もさせないという、異常なイヤガラセをしてくている。戸塚支区の助役は「企業人教育」で学んだ軍隊行動訓練を、全員屋上に集めてやっている。呼名点呼では、仲間が仲間（年上）に対して「呼びすて」をさせてきている。

直営売店へ行った仲間が「人活セ」へ発令され、「約束がちがう」と怒っていた。

東京運転区 弁天橋電車区から機関士の勉強をしろと出された。オレたちは希望していないし、国労役員の追い出しだ。

一五分の時差出勤をさせ、職場の仲間と話させないようにしている。教育期間が短く、これでは多能化と事故を起こしてしまうかも。それ以上に、前の職場には事故をやった人と広域配転者が運転をしている。大問題だ。対外的に「安全性」についてバクロしなくては。

川崎保線区 「人活セ」に入れられても仕事は変わらない。しかし、移動がはげしい。各支区、職場ごとに六人の三役がいたが、内四人が新ツルに集められた。分会の弱体化がネライだ。

また、五〇歳以上の管理長の移動がされようとしている。当局は「この年で移動させられるなら退める」というのをまっている。反対に若い人を区長推薦で管理長にする。八月一五日付で当局は業務揭示板に「三・六協定について」という、一人ひとりに対して強制する、不当労働行為まがいのものを貼り出す。

茅ヶ崎機関区 三支部から一七名の役員が集められている。仕事は電車の掃除等だ。

川崎横浜通信区 「人活セ」のカンバンだけができている。電気合理化後やってくるのでは。

当局は新会社へのパスポートのごとく、非現業への試験を受けると言ってきた。将来に対し、皆不安をもっている。日常の話し合いが大切。

横浜羽沢駅 構内から四人が集められた。「人活セ」を認めない立場から、当局の返事の強要に対して、「監禁されています」と答える。不当な強制労働に対しては「無言無視」で仕事をする。

職場環境等については、「人活セ」は認めないし、「オレたちを元の職場に帰せ」と言う立場で一切要求しない。当局の不当性についてはニュースでバクロしていく。

高島駅 浅野、根岸、東高島から役員、活動家中心に集められた。午前中はセールスチラシのぬり絵、午後はセールスのための勉強。助役がいくら教えても、オレたちは構内で仕事をしてきたので解からない。こんなことでセールスをやらされたら職名上からして問題だ。組合はどうするか？ 方針を。

四五分の休憩厳しい。メン類しか出来ない。当局は必要なのは自分達で買え、と言っているが、湯飲み茶ワンから鉄電まで「オレたちを人間として扱え」と、ニュースなどを出しながら、要求し、がんばる。

横浜要員センター 五名が「人活セ」へ兼務発令されたが、仕事は今までどおりだ。

ところが二名に対して、業務命令を出し、八月二十六日―九月二日で三島の学園に入所させようとしている。ネライはさらなる選別と思想教育だ。

川崎発電所 給電局内に「人活セ」五ヶ所できる。今、過員はいない。しかし、広域配転で一〇数名が過員になるので、当局は点呼で「態度が悪い、人活セへもっていく」と恫喝と分断をかけてきている。毎日集会をもって討論をし、当局に負けない体制をつくっている。

(国労横浜羽沢駅分会「分会報」第七〇号)

大衆運動に火はついた

——三百四議席はこわくない(三)——

国鉄闘争をめぐる情勢についてはたびたび述べた。第一〇七国会が始まったこんにちも、基本的な変化はない。しかし、注目すべき変化もあらわれはじめている。

第一は大衆運動に火がついたことだ。大阪では九月八日、「国鉄解体阻止・大阪地域行動連絡会議」(大阪連絡会議)が結成された(資料1参照)。兵庫県では九月二日、「国鉄闘争に連帯する兵庫県集会」に五三二〇人が参加した。屋内集会では最大の集会となった(資料2参照)。地域的には行政区単位に「多角的・重層的」な共闘組織の結成が相次いでいる。

第二は人材活用センターが社会問題化し、「人材浪費センター」との評価が定着しつつあることだ(資料3参照)。箱根八里・三三キロの行軍、ヒゲ問題等(資料4参照)。

第三は国鉄再建監理委員会「答申」の骨格が変化、破綻しつつあることだ(本誌前号等参照)。

第四はこうして政党、諸組織、マスコミにも「なんのための国鉄改革か」との疑念が噴き出し始めたことだ。そして、労働組合が国鉄問題にたたかいを集中しようとする傾向が強くなり芽ばえてもいる。

こうした変化は私の身近にもおこっている。友人たちが国鉄闘争への協力を自主的に申し込んでくればはじめていることだ。「いま闘いるとき、許すな国鉄分割・民営化」の意気込みでたたかいに立ち上がろう。「分割・民営化」阻止の条件は急速に成長し始めている。

資料1 「大阪連絡会議」アピール

九月一日に開催される第一〇七臨時国会に、先の一〇四通常国会で廃案となった「国鉄解体法案」が再上程されようとしています。

この法案は、第一に公共交通である国鉄を解体し国民の足と安全を奪い、第二に国民一人当たり一四万円もの負担を強い、第三に非事業用地二六〇〇ヘクタールを五兆八千億円すなわち一平方米わずか二二万円で財界が分捕り、第四に憲法と民主主義を否定した労働者二七万人の全員一時解雇と九万人の選別解雇がまかり通るという前代未聞の悪法であります。

今日、法案の再上程すらされていないにも拘らず、職場では「分割・民営」を前提とした「企業人教育」、夏季一時金や昇給カット、「人材活用センター」なる収容所の設置と一方的配転、退職強要、そして国労組織の分裂・破壊の攻撃が堂々とまかり通っているのです。この様な極悪非道な攻撃に対して、すでに全国で一千を超える共闘組織が分割・民営化反対、国鉄解体阻止の闘いに立ち上がっています。

大阪においても私たちは、五月二一日に三〇〇名を結集する中で「国鉄解体阻止・地域行動連絡会議」の準備会を発足しました。引き続き、総評や四地区評の主催による「六・一七国鉄解体阻止・選挙闘争勝利総決起集会」を中央公会堂に二五〇〇名の労働者があふれる熱気のもとに成功を勝ちとるとともに、八月一日からは国鉄の職場へ支援・激励団を派遣し四カ所で激励・交流を進めてきました。

今こそ闘いの時です、政府・財界・国鉄当局の必死の攻撃にひるむことなく私たちはこ

の稀代の悪法を広く国民の前に暴露し、地域住民とともに、国鉄解體法案粉碎・首切り合理化反対の一大地域運動のうねりをつくりだし、悩み苦しみながら必死に闘っている国労を中心とする闘う国鉄労働者を支援し深く連帯するものであります。

私たちは、こうした立場から、労働組合、民主団体、利用者、住民、学者、文化人を広く結集し、ここに「国鉄解體阻止・大阪地域行動連絡会議」（略称、大阪連絡会議）の結成を宣言いたします。すべての良識ある労働組合、民主団体、府民の皆さんの参加と運動への協力を訴えます。

（一九八六・九・八）

資料2 兵庫県集会「闘争宣言」

九・一一集会に結集の参加者の皆さん！ 私たちの集会は、県立文化体育館を埋めた五三二〇人の熱い闘いの決意をたしかめあいつつ、いま、成功裡に終了しようとしています。

「情勢は闘ってこそ切り拓ける」と、集会実行委員会を確認したように一人一人の賛同人（実行委員）が職場で、地域で必死になって呼びかけたこの集会は、予想をこえる広範な人々の共鳴を引きおこし、初期の目標をうわまれる参加者を結集することによって、今後の「国鉄の分割、民営化反対」の闘いに大きな展望を見出すことができました。自民党の三〇四議席獲得と、運動の後退的雰囲気のもとで、冷やかに私たちの運動を見ている人々や、諦めの気分に陥っている人々にたいしても、「国鉄闘争はこれから大衆運動として始まる」ことを知らせることができるとにちがいありません。私たちは「国鉄の分割、民営化は阻止できる」と、腹の底から確信を深めあおうではありませんか。

今日、国鉄闘争をめぐる情勢は、次第に私たちに有利に転じています。

第一に、「国鉄の分割、民営化」に反対する声は日毎に、たかまっています。私たちも本集会の取り組みをつうじて、勇気をもった呼びかけには、広範な労働者、勤労国民がこたえてくれるという事実を学びました。

第二に、「国鉄労働者への非人道的な攻撃」に対する怒りの声の拡大です。マスコミもとらあげざるをえないほどに「働く者の尊厳をかけた」国鉄労働者の苦闘にたいする共感、ひろがりつつあります。

第三に、国鉄の闘争が、自治体や郵政、教育、国家公務員の反行革闘争にむすびつき、うちつづく首切り攻撃にさらされている民間の労働者からの支持をあつめ、反独占の統一闘争に発展する兆しがみえはじめたことです。

第四に、地域生活圏を守る闘いとして盛り上がりはじめた地方交通線廃止に反対する運動が、労働運動と結び付きつつあります。

第五に、「戦後政治の総決算」をかかげる中曽根内閣のファッショ的本質を見ぬき、民主主義と平和憲法を守る立場から、国鉄闘争に連帯しようとする広範な人々が声をあげはじめたことです。さらに、「国鉄の分割民営化に反対し、国鉄を守る国民会議」などの全国的な共闘運動が急速に拡がっていることです。

九・一一集会に結集の参加者のみなさん！ このようなますます有利に展開する情勢を受けて、私たち一人一人が国鉄労働者（あるいは、その家族）になったつもりで国鉄闘争が勝利する日まで心を一つにして闘い続けようではありませんか。

そのために私たちは、次の六点の実行に全力をあげます。

第一に、もっとも多くの仲間に関いの輪に加わってもらえるように、地域の「国鉄

闘争に連帯する運動と組織」を強化拡大しましょう。

第二に、地域の国鉄労働者との連帯行動、激励行動を強めましょう。

第三に、地方交通線廃止反対運動を広範な住民運動と連帯して大きく発展させましょう。

第四に、「国民会議」の呼びかけにこたえ、「分割、民営化反対署名」を大々的に取り組みましょう。

第五に、本集会実行委員会の存続をはかり、県下の国鉄闘争を発展させるために取り組みましょう。

最後に、本集会までに賛同を得られなかった人たちや、団体にたいしても今後とも働きかけを強め、革新政党、民主団体による本格的な闘争態勢を築きあげるために、各人が、持ち場で最大限の努力をしてゆきましょう。

県立文化体育館に結集した私たち五三〇人は、政府と独占資本の理不尽な国鉄つぶしに抗し、正義の闘いに無数の労働者、勤労国民の連帯のうねりがわきおこることを信じて、ここに、力強く、闘争の宣言を行なうものです。

一九八六年九月一日

国鉄闘争に連帯する兵庫県集会参加者一同

資料3 史上最大の「いじめ」作戦

中学の同級生にこちらが逆立ちしてもかなわない優秀な友がいた。当然、一流校に進むと思っていれば鉄道に行くという。いくら優れていても家が豊かでないとそういうことが起きうる、そしてそういう場合、国鉄という「受け皿」が存在する、ということを生近で初めて知った少年時代の記憶としていまも鮮やかに覚えている。国鉄施設以外に何も産業のない町、逆に明治時代、国鉄敷設に反対したため幹線から外れてさびれた町など、鉄路にからんだいろいろな光景をその後も見てきた。全国で沖縄だけが国鉄の「恩恵」に浴さなかった県だが、そのことが経済的ハンディだけでなく、本土と異なった生活光景を生むことも、そこで住んで実感した。

そういう話は、懐旧談、感傷的にすぎるといわれるかもしれない。そういう雰囲気の下で、国鉄の解体、その実たき売りがなくすしの既成事実化し、一日の開会の国会で初めて本格的に審議しようというのに、もうことは終わったかのような観を呈している。

怒濤のようなこの勢いを支えている大義名分は「経済原則」である。だが、国鉄を今日の姿に追いやった経過のなかで、この原則はろくに顧慮されたことがない。政治家たちはそれを無視して赤字路線を強要し、経済界は安価な貨物輸送の重荷を背負わせた。半面、中央と地方の格差をならし、家貧しき人材に道を開き、誘り高きプロ、国鉄マンに仕上げる役割も果たした。その在り方にも、輸送手段としても、経済原則とは別の、公共サービスの側面が強かった。ルールを変えるなら変えるで、そのうえで努力をさせるのが当然なのに、そのいとまも与えずの解体である。公共サービスなら赤字は当然である。経済原則をいうなら自衛隊や警察は赤字でないのか。破綻が顕著な公教育などはもつと民営移管したらよいと思うが、この赤字事業は手放そうとしない。食管、健保はいうまでもない。

この解体作業で何よりも許しがたく納得できないのは、人間をズタズタに解体しようとしていることである。国鉄の今日を招いた主犯は現場の国鉄マンだといわんばかりに、彼らは悪者扱いされている。ヤキを入れ、たたき直さないとフツの人間にはなれないといわばかりに、あるいは雨中の箱根八里を「行軍」させられ、あるいはアナクロリズムの精

神主義（その実、収益中心主義）で名高い会社に「体験入社」させられてシゴかれる。バラバラにされたら弱者でしかない労働者を守るためには「スト権」を当局にさし出して武装解除するところまで出てくる。自殺者と心身を痛める者が続出している。が、現場でどんな地獄図が展開されようとも、だれも守ろうとせず、世間も関心をさして示そうとしない。そこには、弱者、少数者にとってもなく苛烈、冷酷な私たち社会の裸像があまり出しになっている。

わが編集部会議の結論は、これこそ現下最大の「いじめ」事件だというものである。

（「朝日ジャーナル」九月一六日号）

資料4 ついに「死の行軍」阻止

「首切りセンター」救援隊（前日新聞を見て参加した、機関区の仲間が自動車で参加・（自動車二台を含め九名）七時二〇分、湯本駅前でビラ配布、ハンドマイクで宣伝活動。報道陣（テレビ朝日、日本テレビ、神奈川新聞、共同通信、赤旗、社会新報、TBS、朝日新聞）、支援部隊を含め駅前にはふくれあがりました。地主主催駅前集会開催、白山神社へ出発。旧街道のぼって前進ついに鎮雲寺附近で捕獲。甘酒茶屋で激励抗議集会、報道陣含め「中止」を確認。学園側に記者会見要求、横浜機関区OB田代さん、沼津市労連の自動車、活躍しました。

一〇時五分、三島学園到着、報道陣とともに記者会見、面会を要求。一〇時三〇分、一五〇名で勝利集会。横浜機関区OB田代さん……戦争体験三年半。「こんなばかげた炎天下三二キロ陸軍歩兵連隊でもやらない」とあいさつ。まさにこの勝利はマル生以来の人権侵害、自由獲得闘争が具体的行動提起で訴えれば国民的うねりをまき起すことを実証した闘いでした。

二九日 一六時三〇分になってやっとオープンロード（死の行軍）の説明。三二キロだと一八時すぎになるので、一七時三〇分コース二二キロに変更。みんなで質問、要求、「昼食用意してくれ」……「各自で取ること」闘いの準備完了……ワッペン、バッヂ、タオルに入活センター〇〇、バックに国労横浜団結、ハイカーに訴え、告発。さあ明日は頑張るぞ。

三〇日 さあー出発、ところで、講師七名他、不審な者二名同乗しました。どうも講師の様子がおかしい、みんな「便所へ行かせろ」、「湯本の便所へ行かせろ」、「便所は人家の借りたので」、「頭を下げて借りたくない」、「便所へ行かせろ」。鎮雲寺到着（二回小便タイムで停車）Uターン。畑宿附近で歩かせようと一旦停車、「二三分ですから」、「三〇分休ませろ」。

田中線路課長（責任者）、天候の状況と「取材人が危険だから」、みんなの安全を考えて中止「それでは納得できない」学園到着。「なぜ中止したの、ころころ変えるんじゃないよ」、「ころころじゃない、ころだよ」。

一番感動しうれしかったこと……。鎮雲寺附近で駐車。そこへ「首切りセンター」の自動車到着。佐久間代表カメラマンの姿を見て「右翼だぜ」「ヤペーゾー」「あつ佐久間さんだ」「ジーンとした、うれしかった、涙ぐんだ」「頑張つて闘えばかならず前進することに確信もった」。

国鉄当局が三島の学園でおこなっている再教育のカリキュラムは朝七時起床、「右むけ

右」や国鉄体操。隊列を組んでグラウンドを行進する団体行動訓練。七・四〇朝食、八・三〇～一二・〇〇、地図で指定された地点を歩くラリー。一二時昼食。一三・四〇～一七・〇五「八田山死の彷徨」「生きる」などの映画のビデオ、学者や経営者の講演ビデオを見ての感想文や討論。一八時夕食。一九時～二一時自主研修、二二・三〇消灯・就寝。第一陣は二〇代から四〇代までの二四人で、うち一人は障害者で訓練ができないと退学させられました。第二、第三陣とつぎつぎに再教育が計画されています。

国労は、国鉄側が「訓練の成績次第で将来の配属先を決める」と訓練の目的を説明していたことに反発。横浜、川崎などから訓練の出発点とされていた小田急箱根湯本駅に約百人を動員して監視する態勢をとった。

このため国鉄側は出発点を変更し、訓練生をバスに寄せ、あちこち移動させたが、そのつど国労組合員が乗った車十数台がバスを追尾し「死の行軍はやめろ」などとスピーカーで抗議した。

この日箱根地方は早朝から断続的な強い雨と霧に見舞われたこともあって、国鉄側は結局午前中に訓練中止を決めた。
（「首切りセンター」第三六〇号）

資料5 国鉄分割に異議あり（磯崎勲）

交通体系の哲学欠く

――今度の臨時国会で国鉄の分割・民営化法案が集中審議されます。磯崎さんは、「財界」（八月一〇日号）のインタビューで、「今度の改革案には哲学がない」などと厳しく批判していますね。

「国鉄再建監理委員会は、国鉄側の意見をあまり聴こうとしなかった、と聞く。また、仁杉君（巖・前総裁）らの首の切り方もひどいじゃないか。あんなむちゃな人事権の行使は前例がない。それで、先輩の一人として黙っている手もあるまい、と思ったんだ。警鐘をならすには、もう遅すぎるけどね」

――監理委員会の答申とそれに基づく政府法案の問題点は、総論的にどんなことですか。
「まず、百年余の歴史ある国鉄をつぶそうというのに、自動車、飛行機、船と鉄道との関係を今後どうするのかという総合交通体系の哲学がない。哲学なくしてやれば、必ずや朝令暮改になり、数年を経ずして手直しをしなければならなくなる。例えば、石油ショックは過去の悪夢ではない。石油をいまのような低価格で確保できなくなった場合、いった交通体系をどうするのか。せめて三〇年を見越して検討すべきだろう」

「次に、民営化はいいとしても、分割なんてナンセンスだ。輸送というのは現に一貫して流れているもので、ズタズタに切るものじゃない。ダイヤ編成が難しくなり、利用者には不便になる。現に、ヨーロッパではバラバラだったのを一本にした。監理委員会の先生方も視察に行ったようだが、何を学んできたのかね」

「分割後、初年度から三島も黒字になるとか、ローカル線を残すとか言ってるが、分割したら赤字線をますます支えにくくなり、どんどん切り捨てていくのは目に見えている。角さん（田中角栄）が元氣だったなら、事をもっと前向きな角度から進められただろう」

――国鉄の現状をもたらした原因と責任についても、ほとんど触れていませんか。

「経営者が悪かった、といってるだけだ。私も責任の一部は否定しないが、もっと勉強してもらわないと困る。本当の病根は、国が国として当然すべきもの、つまり道路のよう

にタダ（無利子）の金を出さなかったことだ。新幹線の建設、通勤輸送改善など膨大な設備投資を、国鉄はすべて借金でやらされた。収入の運賃値上げに限界がある以上、赤字が出るに決まっている」

組合の抵抗は当然

——各論に移らせて下さい。分割・民営化で六万一千人もの職員が「余剰」とされ、その転職が最大の問題といわれています。

「人間を数としか見ないのは、果たしていかがだろう。私は、二四年に定員法で約一〇万人の首を切ったが、それは実は大変だった。いまは、あの狂乱怒とうのころと時代も全く違う。しかし、法律ができる前から、総裁だって首になったんだ、いうことをきかなきゃ首だぞ、とも取れるような当局のやり方を、納得させるのは難しい」

——抵抗する国労は集中砲火を浴びていますが、動労などは極めて協力的ですよ。

「生活に密着した雇用がどうなるかは、労働条件の根本、労組の基本問題だ。それを揺さぶられたら、組合が抵抗するのは当然だろう。団体交渉ではラチがあかないから一方的実施、というのは、労働運動を解さざる措置ではないかな。労働運動を知っている幹部は、みんな追放されちゃったからね」

「松崎君（明・動労委員長）のような怜悯（れいり）な指導者のいる組合もあれば、国労のような組合もある。一方を善、他方を悪と片づけられるような、生易しい問題じゃない。マル生（生産性向上運動）での痛い経験もあり、杉浦君（喬也・総裁）にも、慎重にやれよといってるんだ。赤旗に取り囲まれようと、自ら出向いていつて、組合幹部とヒザつき合わして話し合う気迫が必要だよ」

大事故対策見逃す

——次に、分割・民営化で安全面への影響はどうでしょうか。

「答申や法案は、事故のことについて全く考えていない。大事故が起こった場合、どこがどのように対処するのか、一言も触れておらず、最も遺憾な点だ。鉄道人としては、耐えがたい見逃しだよ。事故ゼロは理想だが、日航事故にしろ、アメリカのスペースシャトル、ソ連の原発事故にしろ、人間のエラーによる事故は動くものにつきまんだな。いかにチェックを機械に任せても、機械にも材質の疲労があり、最終的にチェックするのは人間なんだ」

「そこで、ぼくは在任中に、技術研究所と人為ミスによる事故を防止するための労働科学研究所を総合した。これらは一本の国鉄だから、大規模な実験もでき、事故の際にも有効に機能し得た。答申はそれを、法人にすればいい、の一言で片付けており、事故に対するまじめさに欠けている。奇をてらった寄せ木細工から、国の未来はひらけないよ」

土地は公共に返せ

——答申が五兆八千億円とはじく二千六百ヘクタールの大規模用地など、国鉄の土地処分をめぐっては、すでにさまざまな利権絡みの動きが進行中ですが。

「ぼくのところへも、不動産屋や保険屋さんが、あの土地の口をきいてもらえないかなんて、たびたび言ってきた。国鉄をまっ殺すれば、血も出るが、うまい肉も出る。そのうまい肉を、みんな安く手に入れようと狙っているんだろが、どこかはき違えているよ」

「一番忘れてならないのは、国鉄用地は百年かけて何億という利用者が五銭、十銭と払ってくれた運賃の集積だ、ということ。国民の共有財産なんだよ。それを国鉄が利用するのはいかん、手放せというなら、公共に返すべきだ。国民に公正に還元されるなら、国鉄の

死に方としてはまだ意味がある。それもダメ、民間に払い下げる、というんなら、うんと高く売るべきだよ。国鉄が困ってるんだから、当然だろう」

——公正な還元なんて、はたして期待できるでしょうか。

「うーん、どう転ぶか分らん。西戸山（東京・新宿の西戸山公務員宿舍跡地の払い下げ問題）がいい例だ。随意契約で払い下げを受けるために、開発会社を都市計画執行団体にするなんて、妙な知恵がありすぎるよ。国鉄用地は、清算事業団が審議会を設けて処理するといってるが、どうせ大手不動産会社などの役員が委員になるんだろうから、国民は納得しまい」

「だからぼくは、この際、国鉄の土地処理だけは裁判所に任せたらどうか、と思ってるんだ。法律上どうなのか分からないが、国民の間には、行政よりはまだ司法への信頼があるだろう。要は、それだけ行政が謙虚、公正でなければならず、そうでないと必ず疑惑を呼び、妙な事になるということなんだ」

（朝日）九月七日付

資料6 「労研センター」の確認

労研センター第二一回拡大幹事会（八六・八・二三―二四）は国鉄闘争に関する確認を次のとおり行った。

一、三顧問及び吉岡代表幹事で総評に対し、次の申し入れを行う。

- (1) 国鉄分割・民営化に伴う資産売却に関する利権・汚職などの事態を国会を通じて徹底的にバクロすることを総評は社会党に強く要請すべきである。
- (2) 同時に、総評は右の主旨にのっとり、各県評を通じ関係社会党代議士に呼びかけ、代議士会で決議を行い、国会闘争を強化することを単産・県評代表者会議で決定し、直ちに行動を起すべきである。

- (3) 院内闘争に呼応し、これをバックアップするため、臨時国会にむけて総評はブロック動員でなく県評動員をもって、政府案による国鉄分割・民営化阻止をめざす数十万規模の院外大衆行動を組織すべきである。

二、労研センターとしては、国労の闘いを支援し、国労組合員を激励するため、次のような諸行動を会員・続者に呼びかける。

- (1) 中央・地方を通じ、全国で国労激励の行動を起こす（国労組合員に国労脱退を思いとどまらせる激励オルグ、レッドバージをさせない連帯行動の強化など）。
- (2) 国鉄の資産売却を監視するため、各地に監視委員会を設置していく。
- (3) 社会党を中心に国政調査権を発動し、政府が国鉄資産の公開を行わない限り国鉄改革法案の審議に入らない運動を広げていく。
- (4) 国鉄分割・民営化に関する地方公聴会を要求していく。

資料7 社会党大会決議

中曽根内閣は選挙結果に基づく絶対多数を背景に先の通常国会で廃案となった国鉄の分割・民営化を柱とした「国鉄改革諸法案」を来るべき臨時国会で強行成立を図ろうとしている。

しかし、先の国会審議でもあきらかにされたように、これら諸法案の内容は、多くの点

すでに矛盾が露呈しており、この内容で国鉄が再建される保証は全くない。また、これら諸法案がそのまま成立、実施されるなら、国鉄が一世以上の長きにわたり育んできた国民共有の財産は解体され、国民は足を奪われ、かつ、地域経済は深刻な危機に立たされるなど国民生活のあらゆる分野において大きな混乱が起こることは必至である。

それだけに、交通専門家はもとより元国鉄の幹部、マスコミ、地方財界、自治体そして利用者など多くの国民は強い疑問と不安を抱いており、その声は益々高まっている。

わが党は、国鉄の改革の緊急性をいち早く認識し、みずからその改革の手法をまとめ、政府案の提出と同時にその対策を提出し、国民の前に、その内容を明らかにするとともに、政府に対し繰返しその独善的な案の再検討を要求してきたところである。

しかしながら政府は、先の選挙において政府の国鉄改革の方向が国民に全面的に支持されたという態度であり、わが党の主張に一切耳を傾けず、無修正のまま、臨時国会に再提出をする方針であり、きわめて重大である。

今、国鉄の現場は、法案の先行実施が不当にも強行されるなかで、差別、組織介入など不当労働行為が続発し、雇用不安の増大からくる多数の自殺者が出るなど、未曾有の混乱状態が続いている。このような情況は、安全性の確保からもきわめて憂慮すべき事態である。

したがってわれわれは、こうした政府の政策の一方的変更がもたらす国民生活の不安の解消および国鉄関係労働者の雇用の危機を早急に克服するために全力をあげて奮闘しなければならぬ。そのためにも、中曽根内閣が進める国民に大きな犠牲を強いる「分割・民営化」の諸法案に断固反対し、真に国民の圧倒的多数の合意形成が得られる国鉄の再建に向けて、総評をはじめとする関係団体や、学者・文化人など国民各階層の協力をえながら、院内外の力を結集し、党の総力を上げて闘うものである。

一九八六年九月八日

日本社会党第五一回臨時全国大会

資料8 闘う国鉄労働者と連帯しよう

なぜ分割・民営化か

第二臨調や国鉄再建監理委員会は「国鉄はほう大な債務をかかえた倒産寸前の企業であり『分割・民営化』するしかない」という。しかし、何が原因で三〇〜三七兆円ともいわれる借金があつたのか。まず、ヨーロッパ諸国、鉄道の基礎施設（路線・駅舎・トンネル・橋）は国家で負担するがあたりまえになっているのに、日本はすべて利子のつく借金。

国鉄は東海道新幹線が開業すると同時に、赤字に転落した。そして財産破たんが決定的になった昭和四十九年から同五八年度までの十年間をとってみただけでも土木、建設、電気、物品発注の三部門、たった六〇社の大企業に運輸収入の二〇％以上が流れ、総工費一兆七、〇〇〇億円をかけた上越新幹線受注企業六三社のうち八一％が工事の見かえりに政治献金をし、資金運用部と大銀行には運賃収入の実に八割弱が元利返済に消えるという。

だから、このツケさえないければ、いまでも収支トントンになるほどである。しかも、この政・官・財が押しつけた借金政策による設備投資のカゲで、笑いのとまらなかつたのは、土木、建設、鉄鋼、車両、電気の大企業であり利ザヤを稼ぐ大銀行であつた。

二百兆円の資産を狙う資本家

このように国鉄を食いものにボロもうけしてきた、政・官・財がまだ国鉄に固執する理

由が二つある。

まず第一はその資産だ。国鉄資産は駅周辺の一等地などが多く、一〇〇兆円とも二〇〇兆円とも言われている。このうち、二、六〇〇ヘクタールを五・八兆円（一坪あたり約七三万円）で売却し、赤字の支払いの一部にあてるといふ。しかし、売却のうわさのある新鶴見、大宮など七カ所一六〇ヘクタールだけで時価五・五兆円もするといわれているのに、その十数倍もの土地が五・八兆円とは不思議な話だ。

独占資本が駅前の一等地を破格の価格で買いとり、土地ころがし、高層ビル建設で活用するなどボロもうけの手段と考えているのは今公然となっている。

そして第二の狙いは「国労つぶし」である。総評の階級的労働運動の機関車的役割を果たしてきた国鉄労働組合が分断され、なおかつ弱体化、解体できれば、臨調行革攻撃は加速度的に早まるだろう。十数万人の首切りを中心に、処分の乱発、人材活用センターへの出向、昇給・昇格の差別など、あらゆる手段をフルに使って国労つぶしが展開されている。国鉄闘争が二〇三高地といわれるゆえんである。

高い、不便、危ない分割・民営化

一方、この「分割・民営化」は利用者にもたらすだろうか。

まず運賃の値上げである。コストに見合った運賃ということになれば、最終的には線区別の運賃ということにならざるをえないから、ローカル線の運賃は大幅な値上げ——自治体負担の増大（現行の幹線に対する地方交通線の収入係数は約四倍）——さもなくば廃線にむかわざるをえなくなる。大都市の運賃も各会社が大きな債務負担を負ってスタートすることや、分割の実情からすれば運賃値下げの条件は見当らない。

そしてコストを最優先させるからこそ、「赤字」ローカル線の切り捨てが一層進行することになる。住民の反対などで、「バス転換などが予定されている路線以外も国鉄からの分離を積極的に推進」という方針を「特定地方交通線（一日の輸送密度が職員一人当り四、〇〇〇人未満の路線）以外の地方交通線は幹線とともに引きつぐ」というように変更したが、引きついだあとの維持、運営については言及していない。しかも「特定地方交通線についてはあくまでも廃止」が前提なのである。兵庫県でも加古川線、鍛冶屋線など住民の大切な「足」が切り捨てられようとしている。

また列車ダイヤについては、各分割会社は営利第一だから、金にならない列車は走らせないから、自社内の通勤、通学は時間帯を考えてダイヤをつくるが、境界を越えて走る列車は、他社と利害が対立し、ダイヤをつくる上でうまく行かないだろう。国鉄は日本のどこからどこへも旅行できるところに価値と役割をもっているが、六分割されてしまうと全国をつなぐダイヤはなくなり、こま切れの列車の乗継ぎを繰り返さないと長距離旅行は不可能になる。

そしてもう一つの大きな問題は安全性である。監理委員会は「経営の効率化」「人件費の抑制」「合理化の推進」を柱に競争意識に拍車をかけようとしているが、これが設備費の大幅ダウン、投資効果の少ない要員削減（安全保安要員）、安全のための保安、点検機器類の投資減などにつながり、「安全性」が安全に後退させられてしまうことだ。再建監委員の答申に「安全」については数行しか書かれていないことが、その姿勢を示している。たたかう国鉄の仲間

この「分割・民営化」に向けて、今当局は何をしているか、職場の状況はどうなのかの一例を、神戸須磨区にある国鉄鷹取工場でみてみよう。

仕事中に汚れた体を時間内に入浴して落としてきた従来の慣行をやぶって、一切禁止、安全対策不備のため、青年労働者の感電死、これらに抗議、質問するだけで処分、組合指令のワッペン着用も処分、部外者の工場立ち入り禁止、組合事務所の明け渡し命令など、不当労働行為やファシシオ的弾圧がまかりとおっている。

さらに職場長の独断で対象者を選定した「特別安全教育」を称するものを実施。一〇日間の講義の後、レポートを提出させ、これの落第者（ほとんどが国労の分会役員と青年活動家）にたいして、その翌日から古自転車解体や修理、文鎮みがき、エアースホースを輪切りにしての靴ふきマットの製作。さらには電線の切れ端から銅線を取り出す皮むき作業など、「安全」とは無縁の作業に従事させ、これを二〇日から三ヶ月もの間続けさせた。

しかも、作業中は監理職の監視が付き、その許可なしにはトイレにも行けないように縛られており、この心労のため円形脱毛症になった組合員まで出た。

だが国労の仲間はやらねばなしではない。この二年間に組合員数の二倍以上の処分件数（二、六〇〇余）は、それだけの抵抗の数を示しているし、先の「特別安全教育」に対しては一〇人が裁判闘争を決定した。

原告団の二人S君は言う。「いま鷹取なら誰が原告団になってもおかしくない。ここで立ち向かって行かなくてはと決意した。決意してからだんだんと気合いが入ってきた。提訴の次の日からまた監視がきつくなってきた。遠まきにずーっと見ている。ちよっと他の作業の所へ行くとすぐ飛んできて『君は何をしている！ 君にはその作業を命じていない！ 職場離脱だ！』と、正直言ってビビる……。しかし、相手が許せん。勝ち負けやない。相手のこの汚ないやり方をだまされてられないのだ。そのことをもっと広げていかなあかん。』こうした異常とも言える国鉄当局の人権侵害に対し、鷹取工場に働く仲間には、「絶対に許せない」と、人間として扱わない当局を告発したのである。

反「行革」で連帯しよう

兵庫県は七月二二日、『国鉄余剰人員の受け入れ』について、今後四年間で一五〇人（鉄道公安官を除く）を目標に国の措置に準じて採用することを発表した。

しかし県職はこれについて、未だ①「国鉄」法案が成立をみていないこと、②国鉄内の最大組合である国労と国鉄当局との間で、この問題についての決着がつかっていないなかで「受け入れ」を決定することは、たとえ閣議決定が行われているとしても、国会を軽視し、国鉄職員の多数の意見を無視したものである、とこの決定を撤回するよう強い抗議声明を出した。臨調Ⅱ行革路線に沿って職場での欠員不補充、定員削減、民間下請け化を必死で進める当局が、気前よく国鉄職員を受け入れるという所に、自民党Ⅱ中曽根政権の支配体制をかけたただならぬ構えが見られる。

だが、こうした国鉄解体・国労つぶしに反対し、反行革の統一闘争を上げようという努力も行われている。地方行革にさらされる自治労、教育臨調攻撃下の日教組、全通、さらには民間の仲間、地方ローカル線の住民、など各地で連帯の輪が広がっている。

今年三月、須磨区、中央区、芦屋市の「反行革の会」が連絡準備会を結成し、今では十地区を超えた地域に広がり、中央での「国鉄の分割・民営化に反対し、国鉄を守る国民会議」と連動して、兵庫でも五千人規模の集会を予定している。

（兵庫県職「新聞ひょうご」、八六・八・二〇）

政界・ところや談議——「創る会」の巻

熊さん やあー、ご隠居、不景気だねえ。あつしんちゃんなど、行革だ、ホレ円高とかでオヤジのやつ毎日シケた面してますぜ。中小企業も社長もあつしら労働者も青息吐息でさ。なんかこうパーと楽しくなるような話ねえんですかねえ。

ご隠居 この前の選挙で、ナカソネが勝って、どうもいけないね。マル優廃止なんてとんでもない。ナカソネさんは私ら年寄りに死ねというのかね——なんてバアさんプリプリしているよ。しかし、驕る平家は久しからずだ。社会党が昔みたいにしつかり頑張りさえすりゃ、大丈夫なんだが……。

社会党といえば、熊さん、この前、日本で初めて女性党首になった土井さんて人知ってるかい。

熊さん いくら不勉強のあつしでも、昔からの社会党ファンでございますよ。土井さんは憲法学者出身で、平和憲法を守る気迫と意地にかけて、右に出る人はいねえそうじゃねえですか。前の人みてえに、はじめは威勢よく中曽根をボンボンやったが、最後にや自民党と手を組むなんてことを絶対に言つてはしくないですな、ご隠居。

ご隠居 まったく同感だね。

熊さん ところでご隠居、社会党には、「社会党を新しく創る会」とか「新しい社会党を創る会」とかいふチンケなのがまた出来たんですって。ありや一体なんですか。

ご隠居 よく知ってるね。一言で言えば、「非政構研・反左派」というところかな。なんでもその「呼びかけ」では、「新宣言」の採択は、ニュー社会党にとって「一里塚」に過ぎない」とか、「教条主義は克服する」とか言ってるそうだよ。

熊さん マスコミではもてはやされたけど、まじめな活動家からはケチンケチンケの、あの「新宣言」が「一里塚に過ぎない」じゃ、何をか言わんやだね。

「創る会」ってのは、「社会主義協会現実派」とかいふ人たちが中心でしょ。だつて連中、この前の正月をはさんだ党大会じゃ「新宣言」には反対だが、党を守るため」とかなんとかいつてたんでしょ。舌の根も乾かねえうちにたあ、このことだ。

人間なんて、変わり始めりゃ早いもんだ。恐れいりやした。

ご隠居 まあ一事が万事。選挙に惨敗したのも「ニュー社会党の内実が不鮮明」だったからだとき。前の委員長の例の「保革連合構想」つてのに象徴される「ニュー路線」の敗北だつてことに気がつかない向きにや、つける薬はないね。

そのうち、全電通なんかのように、SDIは黙認、安保・自衛隊・原発賛成なんて言い出しかねないね。なかには真面目な議員さんたちもいるようだし、「地獄への一里塚」ということに早く気がつくことを祈るのみだ。

熊さん 昔の中国の偉い人が言つてたじゃねえんですか、ほれ、「誤りを改めるのに……あれでしょ、ご隠居。

ご隠居 そう、孔子様の「論語」に「過ちには改むるに憚ることなかれ」と言っているね。

熊さん ところで何人くらのグループなんですかね。

ご隠居 ほう、気になるかね。新聞やいろんな話を総合すると、国会議員が数人、地方からチョボチョボ、三宅坂の党の本部書記局から大挙二〇人で、先月末の結成総会は四〇人ほどだったそうだ。

「非政構研・反左派の結集」という割にはこじんまりしてるね。

資料9 「新しい社会党を創る会」の呼びかけ

いま、わが党はかつてない危機に直面しています。過半の衆参同日選挙は、わが党の党史上例をみない惨敗に終わりました。この敗北は単なる選挙技術上の問題にとどまらず、社会党の存在そのものが問われることを示すものです。

石橋執行部は、責任の所在を明らかにするため、執行部総辞職を決定致しました。潔い態度だといふべきです。しかし、執行部が責任をとって辞職するだけでは、ここまでにたち至った党の再生を図ることは不可能です。今こそ、党全員一人ひとりが自己革新を行い、衆知を結集し、党再生のエネルギーを生み出さなければなりません。

私たちは有志は、先の五〇回党大会を契機として、「新しい社会党を創る会」の結成をめざしてきました。それは次のような認識によるものです。

今、二一世紀を前にして、政治・経済・社会すべての分野にわたって激しく揺れ動いている。反核・軍縮という人類的課題をはじめ、飢餓と貧困をすべての地球上からなくし、環境を守り、平和な国際社会を創り出すこと、それはとりわけ平和憲法を持ち、有数の「経済大国」となった日本の債務である。そして、軍事大国への道を選ばず、「生活の質」を問いなおし、国際化・高齢化・情報化・高学歴化などの新しい状況に取組み、国民一人ひとりが豊かで創造的な生活を築いていくことが求められている。

日本社会党が、この新たな課題に応える道筋を示すことができるかどうか、政権をめざす党として厳しく問われている。

過般の第五〇回党大会は、全党の真しな努力で「新宣言」を満場一致で採択した。しかし、『新宣言』の採択は、ニュー社会党にとって「一里塚」に過ぎない。

時代の転換点にあたり、護憲の党としての四〇年の成果を踏まえつつも、これらの諸課題に既成の概念にとらわれず取組み、絶えざる自己革新をはかり、自民党にかわって政権を担う社会党への脱皮と再生の内実を固めなければならないと考える。

私たちは、こうした考えのもとに、衆参同日選挙後に、「新しい社会党を創る会」の正式な呼びかけを行うことにしましたが、選挙の惨敗は、ニュー社会党の内実が不鮮明で、未だ理念や言葉の段階に止まっており、そのことが国民の支持を得られなかった原因であること、したがって、「新しい社会党を創る」ことは一層急務となっていることを私達に示しました。

そこで私たちは、ニュー社会党を実質化し、広範な国民の中に広がりをもった党づくりめざし、そのための提言を積極的に行う、「新しい社会党を創る会」を正式に結成することと致しました。

私たちは、共同戦線党の特色を活かし、新たな運動・組織・政策の創造をめざします。自由に発言し、自由に討論できる党風を確立するとともに、党の上に個人やグループを置かず、党の統一的機能の前進をめざします。そのため、これまでのグループや派閥に一切とらわれず、ゆるやかに、そして大きく「創る会」への参加を呼びかけます。

「創る会」のめざすものは、次の四点です。

①現代資本主義の分析に立ち、これまでの理論的成果を活かしつつ、同時に教条主義を克服してニュー社会党を実質化し、新たな運動、組織、理論・政策の創造について研究、討議し、その成果を党機関に反映させる。

②広範な勤労諸階層・市民とともに地域の大衆運動を創造し、生活密着型の党づくりをすすめる、その成果を全党のものとする。それを通して選挙に勝てる党建設をはかる。

③自由に発言し、自由に討論できる党内民主主義のルールの上に立つ、同時に決定されたことは実行する「機関中心主義」による新党風を確立する。「創る会」の運営においても自由に発言し討論することを重視する。また、いかなる立場を問わず排除の論理を否定する。

④従来の人事派閥とは異なり、党の人材については全党的立場で選出し、適材適所を貫くよう発言する。

私たちは、以上の考えで、まず中央の段階から研究会をはじめとする活動を開始する決意です。なお、「創る会」の会則等は、新しいタイプの集図らしく、みんなで決めていく考えです。

どうか私たちの趣旨をご理解いただき、ともにニュー社会党の実質化、党再生にむけて前進しようではありませんか。

呼びかけ人 井上泉 大原亨 木間章 開山信之 戸田菊雄 水田稔 山本政弘
一九八六年八月七日

◆読者からのおたより◆

七月より一歳の下の子を保育所に入所させましたら、上の三歳の子とあわせて、保育料がついに九万円。私の手取り額と同じになりました。子育てに追われる日々ですが、何とか学習の時間を作り出さねばと思うきょうこの頃です。

(茨城・N)

毎号の内容に激励されています。これからもがんばってください。

(高知・O)

毎号くるのを楽しみにしています。同じ単産の仲間に拡大しましたので、下記二名に送ってください。

(紋別・I)

九月からA氏あてにも郵送してください。貴誌の「教育臨調の狙い」「国鉄分割・民営化の本質」などの記事をコピーして渡していたところ、ぜひ購読したいといわれましたので。いっそうの健闘をお祈りします。

(千葉・A)

厳しい結果が出ましたね。死ぬまで勉強、運動という言葉がバックボーンとしてあるかぎり、楽天的に生きましょう。

(船橋・K)

適確、迅速な情報提供に感謝しています。よりいっそうのご奮闘を！

(富山・M)

九月下旬発行

社会通信社刊

国鉄闘争——勝利への展望

予価四百円

国鉄闘争はいよいよ正念場。国鉄国会の幕開けと同時に、「分割・民営化」阻止するための新たな動きが目立ってきました。

第一は大衆運動に火がついたことです。その象徴は九月一日兵庫県でおこなわれた「国鉄労働者に連帯する兵庫県集会」です。これには五三二〇名が集まりました。

第二は国鉄解体八法案は稀代の悪法であることです。けっして国会審議にたえることができない代物です。だから、組織攻撃で国鉄解体をめざすのです。しかし、そのテコとされた「人材活用センター」が当局の弱点となってきました。

第三は監理委員会「答申」の骨格がすでにくずれ始めていることです。「分割・民営化」は「赤字解消」が唯一の口実です。しかし、事態の進行は赤字の「拡大」以外の何物でもないことを示しています。

第四はマスコミ論調にも変化がみえることです。「文芸春秋」一〇月号、「朝日ジャーナル」(九月一六日号)等、商業紙も「なんのための国鉄改革か」との論調が目立つことです。自民党の「きしみ」も日々明らかになっています。これは私たちが勝利する条件です。社会通信社では現状の国鉄闘争をめぐる特徴をえぐりだし、八・二六シンポジウムの報告を中心に、パンフレットを発行します。内容は左記のとおりです。ご購入を心からお願い申し上げます。

はじめに

渡辺 和彦(国鉄反合理化研究会代表)

一 国鉄闘争の戦略・戦術

岩井 章(「国民会議」よびかけ人)

二 国鉄労働者と国鉄闘争

宮坂 要(国労東京地本企画部長)

三 全国統一闘争の焦点と課題

牛久保秀樹(「東京会議」事務局長)

四 「希望退職」「法案」阻止の条件

滝野 忠(「社会通信社」発行人)

五 地域から反撃を

木村 勝利(国労横浜支部書記長)

六 国鉄解体法案の問題点

中村 譲(国労本部書記)

補論

一 闘う指令部をつくる

小島 忠夫(国労施設支部副委員長)

二 国鉄監理委「答申」の偽瞞をつく

牛久保秀樹

A5版 七〇頁 定価四百円(予定)

お申し込みは社会通信社へ(電話〇三―三六―一七〇七九)

申し込み書

部数

送付先

住所

氏名